

事業名称
文化振興事業

目的	多彩な芸術・文化振興を育み、市民が芸術に触れる機会の拡充に努め、主体的な市民の文化活動を支援し、内外に発信する	対象	市民等
事業概要	○総合文化センター自主事業 ・市民に文化芸術鑑賞機会を提供するため、幅広い年代に向けた各種鑑賞事業やワークショップを含む参加創造型事業を実施した。また、実行委員会が行う事業等の文化・芸術活動に対する支援を行い、地域の文化や芸術の振興を図った。 ○朝倉文夫記念館自主事業 ・大分県内の作家による展覧会を4回、県内アマチュア作家を対象とした美術コンクールを1回、豊後大野市在住及び出身者等の陶芸愛好家の作品展を1回開催した。また、外に出る美術館事業等を実施し、朝倉文夫について理解を深めた。 ○大分アジア彫刻展事業 ・大分県と共催で第11回展を開催した。関連事業として小中学生を対象とした「大分県子ども彫刻展」、市民参加型の「ジオサイト彫刻フェスティバル」、市の国際交流協会と共催で「ふれあいカーニバル in 大分アジア彫刻展」を開催した。 ○神楽会館自主事業 ・「NPO法人郷土芸能を守る会」に神楽公演の事務運営を委託。一般公演を12回開催。 ※24年度より神楽会館自主事業を含む		

39

2. 指標設定

成果指標	指標名	文化活動の活性化自主事業の数	目標年度	指標の設定理由			
	数値	32回		総合計画/後期基本計画において、基本施策(5-2-2)の目標達成のための重点施策である			
活動指標	指標	a 総合文化センター自主事業の入場者数	b 朝倉記念館鑑賞型事業の入館者	c 朝倉記念館参加型事業の参加者数 (H23まで100人、H24~180人(講座が管理から自主へ変更))	d 神楽会館自主事業の入場者数		
	数値	目標 6,000人	目標 4,500人	目標 180人	目標 2,400人		

3. 実績(上段・実績/下段・達成率)

成果指標名	単位	H 2 2	H 2 3	H 2 4
文化活動の活性化自主事業の数	回	20.0 回	22.0 回	41.0 回
		100.0 %	110.0 %	128.1 %

活動指標名	単位	H 2 2	H 2 3	H 2 4
a 総合文化センター自主事業の入場者数	人	5,364 人 89.4 %	7,490 人 124.8 %	5,080 人 84.7 %
b 朝倉記念館鑑賞型事業の入館者	人	5,918 人 131.5 %	5,701 人 126.6 %	5,355 人 119.0 %
c 朝倉記念館参加型事業の参加者数(H23まで100人、H24~180人(講座が管理から自主へ変更))	人	800 人 800.0 %	158 人 158.0 %	222 人 123.3 %
d 神楽会館自主事業の入場者数	人	— —	— —	2,368 人 98.7 %

4. 課題と対応

課題
入場者数が、目標に達成していない。公演のジャンル・展覧会の内容等により集客に差がある。
対応(改善点等)
市民等が参加できる舞台や多様な舞台芸術鑑賞会の開催。魅力ある展覧会やワークショップを実施する。市内ケーブルテレビや告知放送、チラシ・ポスター等で市民に周知を図る。

5. 事業費・・・H22～H24(決算額)、H25(予算現額)

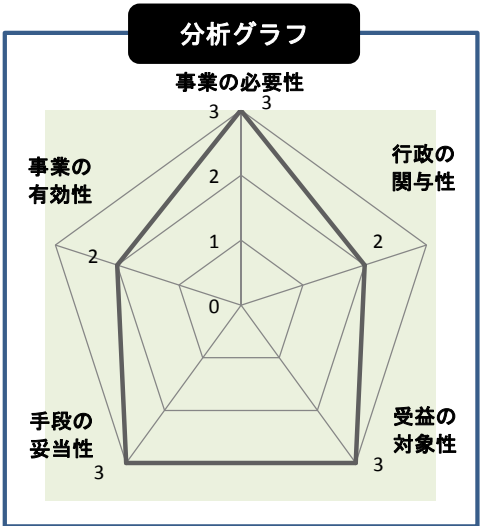
決算額(千円)		H22	H23	H24	H25
		37,581	34,795	41,204	37,713
うち経常経費		37,581	29,124	32,199	37,713
財源内訳	国費			4,499	
	県費		3,351		
	市債				
	その他	9,126	7,267	7,335	10,527
	一般財源	28,455	24,177	29,370	27,186
	うち経常	28,455	22,957	25,864	27,186
事業費に係る人件費		16,205	15,910	16,316	16,564
事業費に係る人役		3.70	3.70	3.80	3.80

6. H26年度予算の方向性

方向性
前年並
理由
総合文化センターは、指定管理者へ移行予定

7. 担当課による分析

着眼点		分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3	芸術文化に触れる機会の提供、郷土芸能の保存・承継の支援、制作活動をしている市民に発表の場を提供することは、心豊かな生活を送る上で必要である。
② 行政の関与性	責任領域の精査	2	民間によるサービスも可能であるが、利益につながらないものや公共性のあるものは、行政の関与が必要である。
③ 受益の対象性	事業対象の確認	3	市民を対象にした事業である。
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	3	実行委員会形式の事業や市民参加のワークショップ、アマチュア・一般の美術展等の開催は適切な手段である。
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	2	自主事業の回数は目標に達成しているが、入場者数が減少している。来場者等は固定化の傾向にあり事業内容の検討が必要。



8. 内部評価委員会評価(委員会評価)

事業の方向性	評価内容
継続	市民を巻き込んだ魅力ある事業を展開するとともに、引き続き、経営努力に努めること。